

## 『資本論』深掘り講座 (第4回) ニュース 3/5

一大政治決戦が目前です。大軍拡・大增税を阻みましょう。知を力とする学習をご一緒に。

### 前回の学習

・ワンポイント学習。「ジョブ型雇用まみならず。」基本は、賃金は労働力の再生産費。『資本論』観点で批判していきましょう。「『普遍』的価値の漂流。」自由・平等・人権・民主主義は交換過程での産物であり、未来社会で搾取をなくして完全に実現するとマルクスは捉えた。

・第2篇 利潤の平均利潤への転化。

同一費用価格でも、①有機的構成の相違により部門間の利潤率は異なる。 $v$ の比率が高ければ高く、低くければ低い。②回転時間による相違。短ければ高く、長ければ低い。

この二要因による諸部門間の利潤率の相違は現実には競争(部門間競争)  $c$  と  $v$  の区別のない費用価格の同一性が諸投資の基礎により均等化される。こうして部門間の平均利潤率が形成される。 社会の総利潤(総剰余価値) ÷ 総費用価格 = 平均利潤率

各資本家は、社会の総剰余価値から自分の前貸しに応じて、分け前(平均利潤)を受け取る。株式会社の株主のように。 費用価格 × 平均利潤率 = 平均利潤。

生産価格の確定。 生産価格 = 費用価格 + 平均利潤。 [ $w = c + v + m$  ·  $(c + v) =$  費用価格 ·  $m$  が利潤を経て平均利潤に転化] 生産価格は価値から離れるが、総生産価格 = 諸商品の総価格。 価値は理論的にも歴史的にも、生産価格の先行者。

### 本日の学習 第2篇「利潤論」(2)第10章から

#### 本日のスケジュール

13:00~14:00 講義 I (60分)

14:10~15:10 講義 II (60分)

15:20~16:20 講義 III (60分)

16:30~16:55 自己紹介の残り 1人2分以内

16:55~17:00 片付け・終了

#### 次回 5/7(日)(4月は順延)

エデュカス東京地下会議室

学習: 「利潤率の傾向的低下の法則」

利潤率の低下と恐慌の必然性

\* 質問・感想を文書でお出してください。会場での Q & A はありません。後日文書回答。

ご案内 第1巻講座 3/19(日) 13:00~ 17:00 エデュカス東京5F 会議室  
第7篇 第22章 ~23章 (参加費:2500円)

『D・K』を読む会 3/25(土) 13:00~17:00

東京八重洲地下 八重洲倶楽部 第7会議室(Zoom も)(参加費:500円)

第1巻 第7篇 第24章「いわゆる本源的蓄積」第6~7節